

2026年3月期 決算ハイライト

2026年4月27日

三谷産業株式会社

証券コード8285 東証スタンダード・名証プレミア

2026年3月期 決算

前期比で増収増益。売上高・各段階利益は過去最高を更新
 経常利益は、営業利益・持分法投資利益の増加を主要因に増加
 親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加・投資有価証券売却益計上を主要因に増加

単位：百万円

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
117,531	3,379	4,519	3,627
前期比 +14.0%	+62.9%	+70.1%	+48.7%

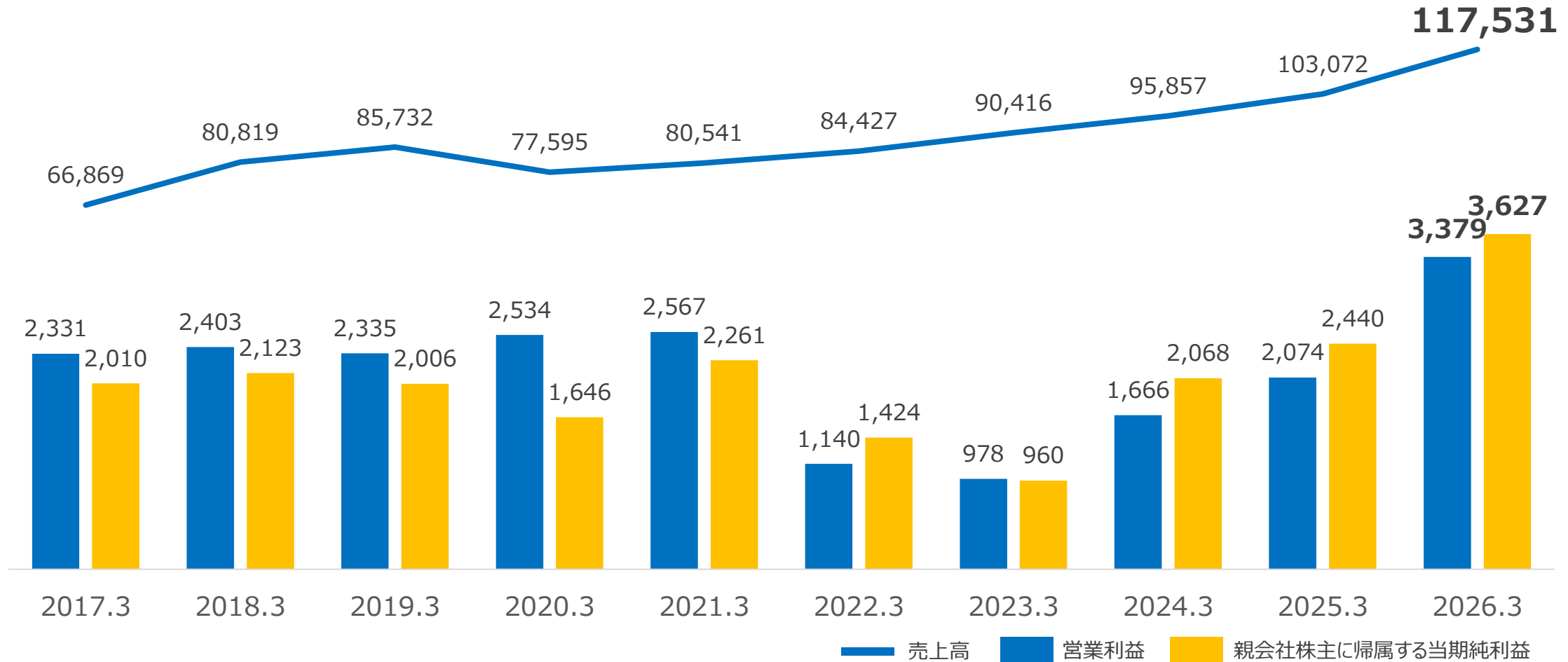
主な増加セグメント
 情報システム（前期比 +59.8%）
 化学品（+11.4%）
 住宅設備機器（+10.5%）

主な増加セグメント
 化学品（前期比 +104.6%）
 樹脂・エレクトロニクス（+91.1%）
 情報システム（+47.6%）

年間売上高・利益の推移

売上高は6期連続の増収、各段階利益は3期連続の増益
 売上高・各段階利益は過去最高を更新。売上高は10年間で500億円以上増加

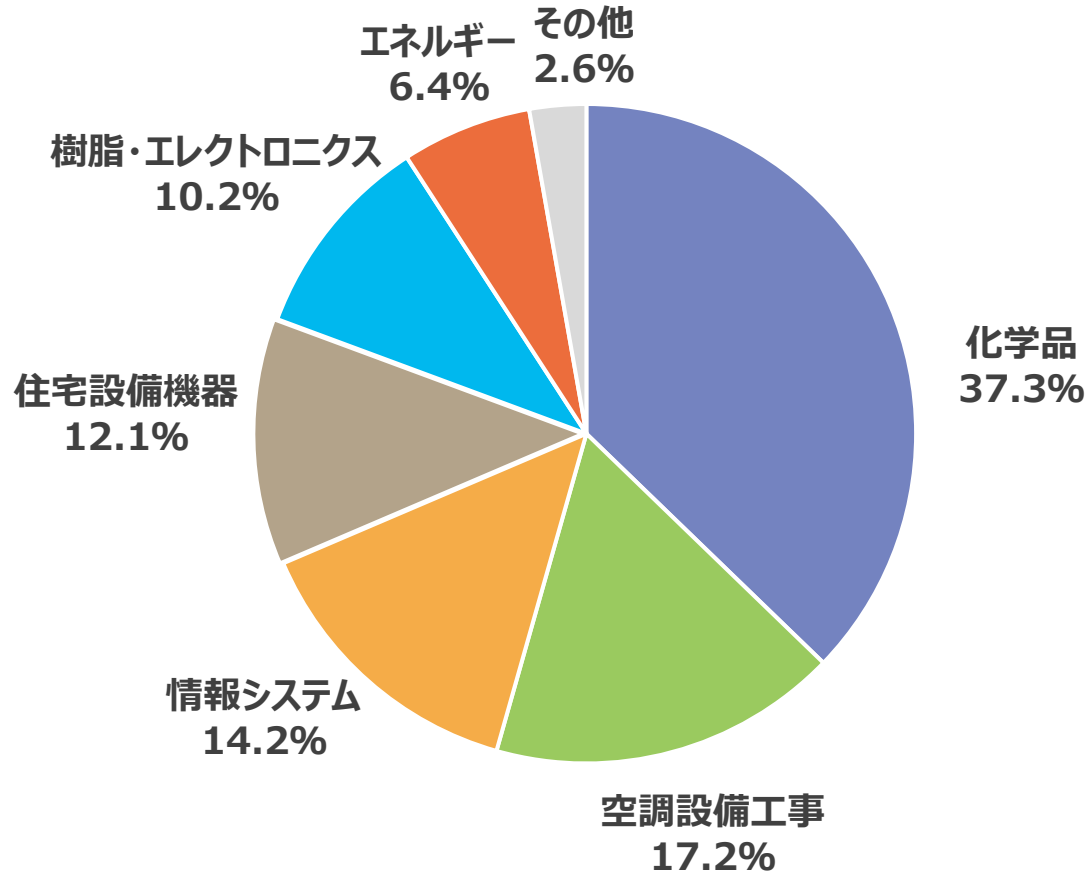
単位：百万円



セグメント別売上高構成比・営業利益

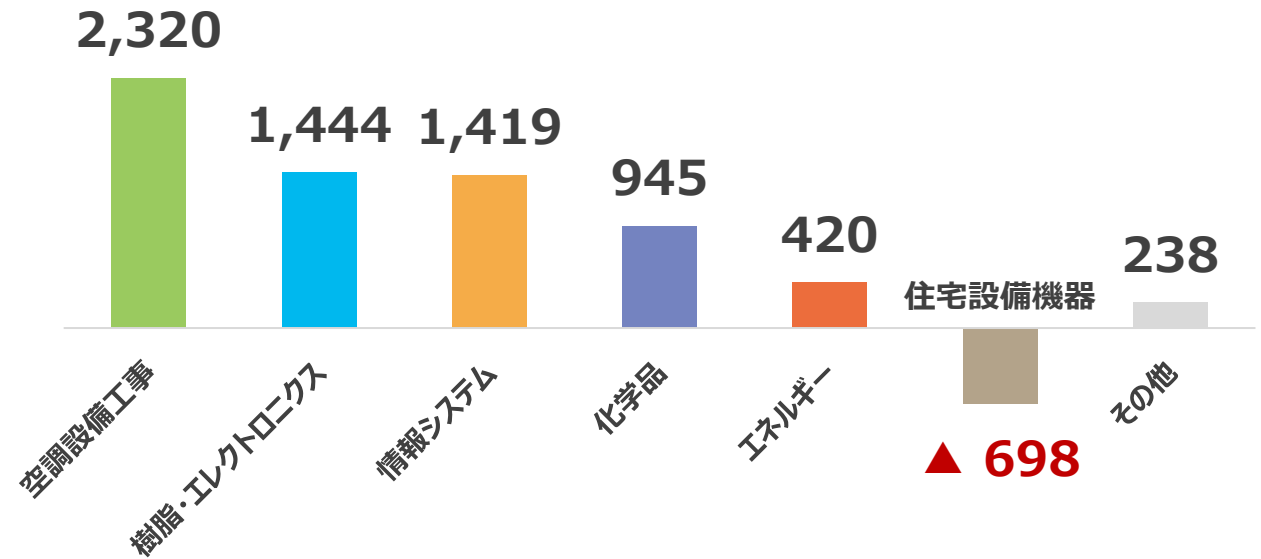
売上高は、**化学品**、**空調設備工事**、**情報システム**で約7割を占める
 営業利益は、**空調設備工事**、**樹脂・エレクトロニクス**、**情報システム**がけん引

売上高



営業利益

単位：百万円

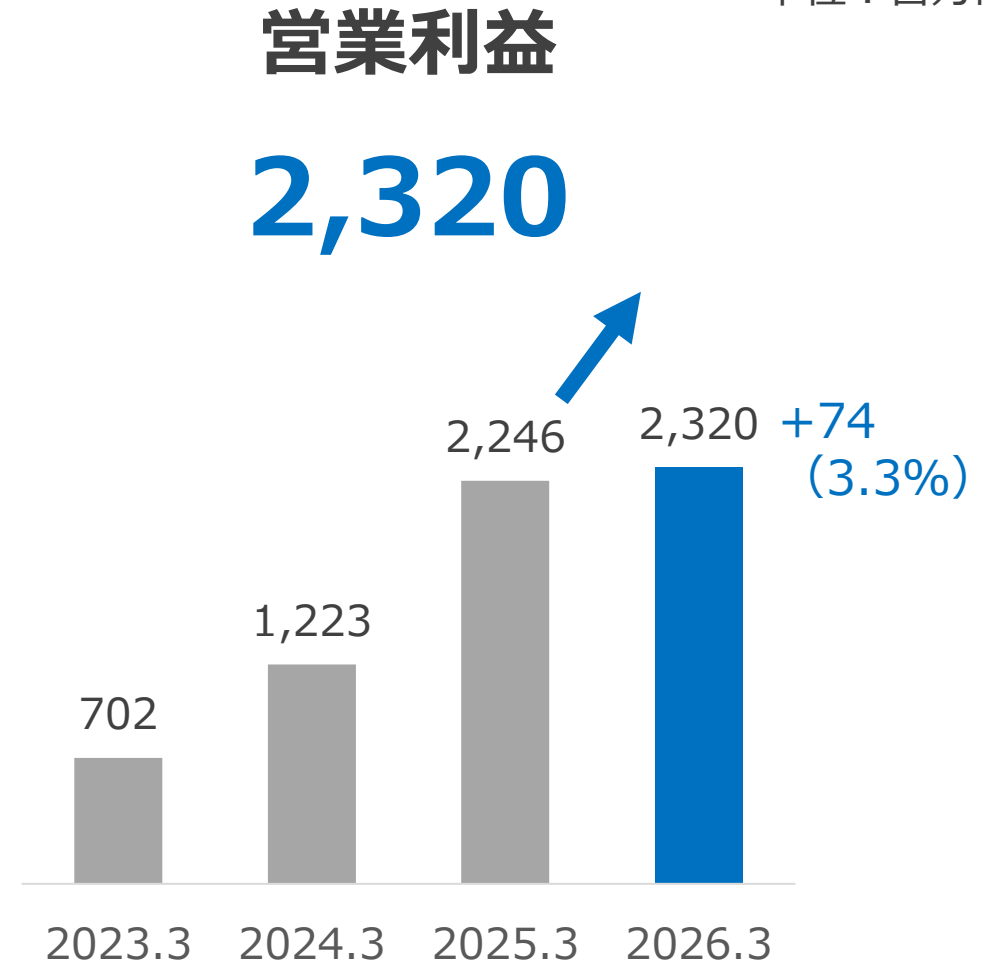
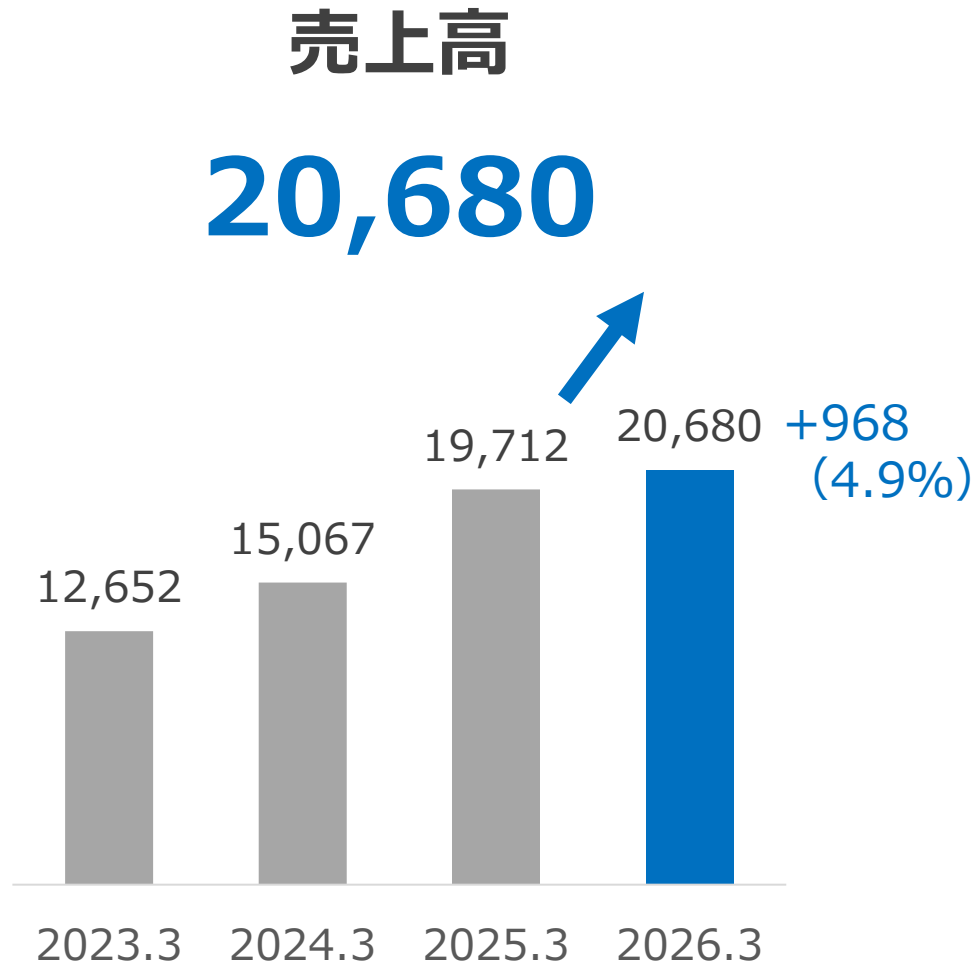


※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含めて記載

空調設備工事 増収増益

売上高は、首都圏において大型の新築工事が順調に進捗。営業利益は、売上高の増加が主要因
 売上高・営業利益は、2期連続で過去最高を更新

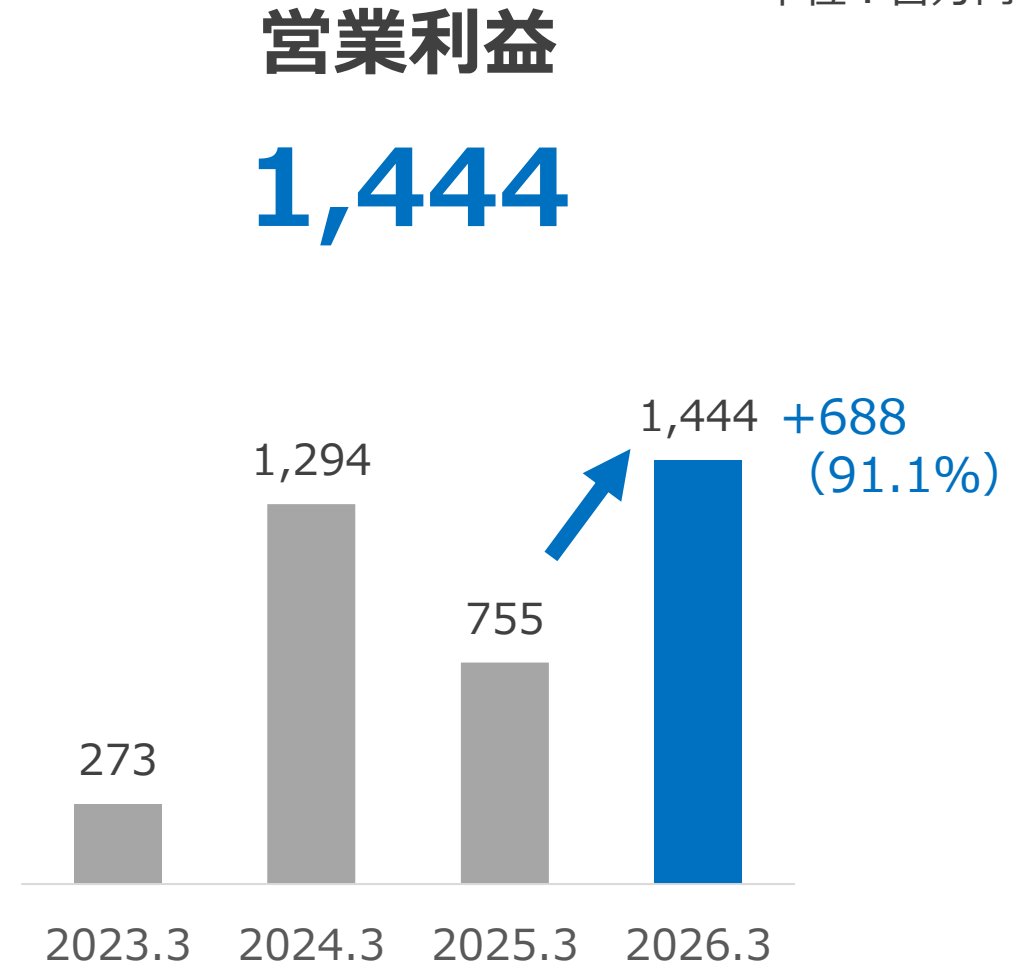
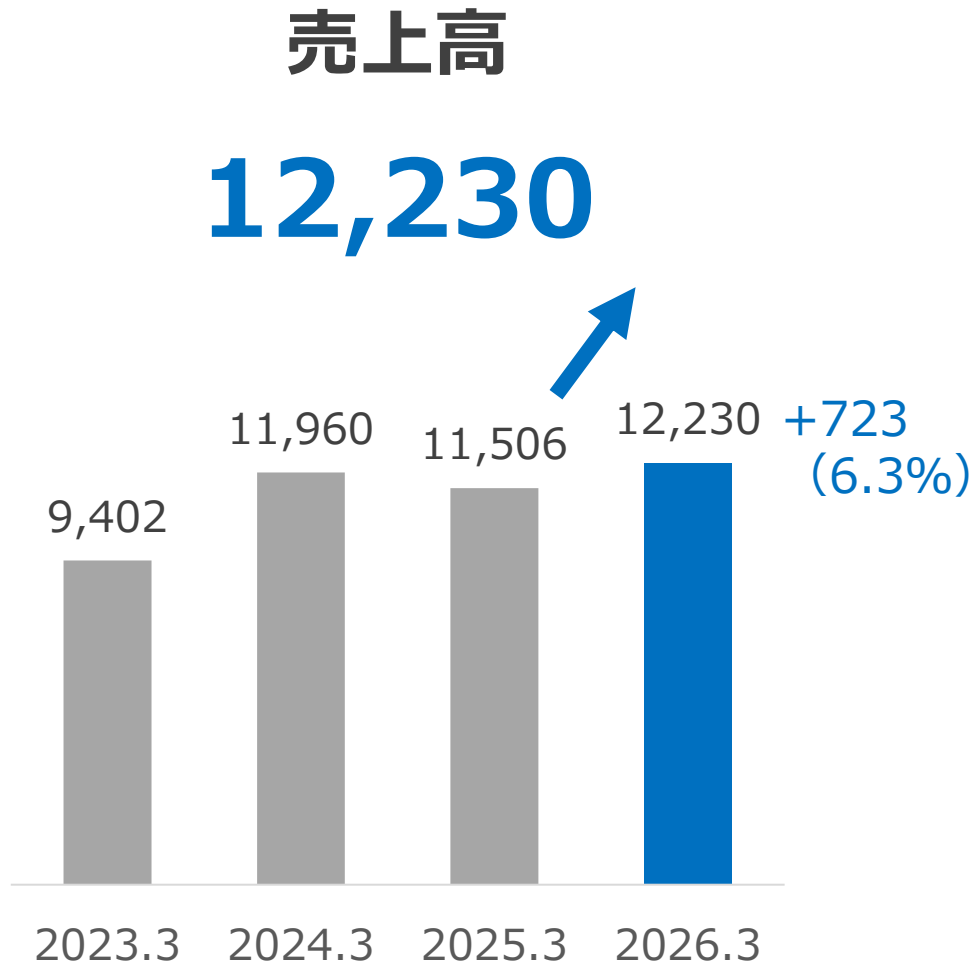
単位：百万円



樹脂・エレクトロニクス 増収増益

売上高は、車載向け樹脂成形品の需要回復、円安ドル高による外貨建て取引における円貨換算額が増加
 営業利益は、売上高の増加、原価低減活動等が奏功、車載向け以外の新製品納入が利益寄与し、過去最高を更新

単位：百万円



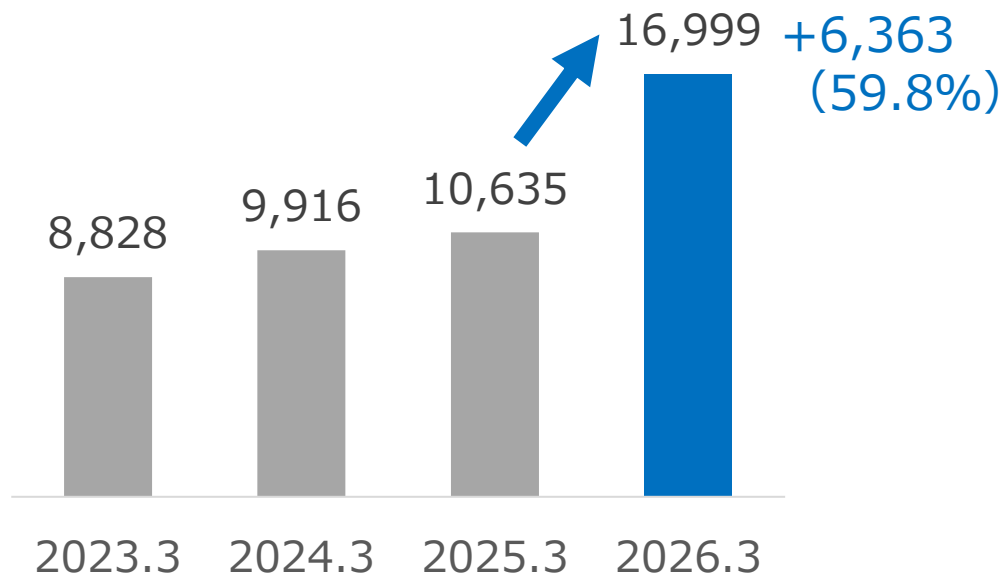
情報システム 増収増益

売上高は、NEXTGIGAスクール案件等の納入、当案件を契機に受注した教育現場のDX推進案件の実施、複数の基幹システム更新案件が順調。営業利益は、売上高の増加が主要因
 売上高・営業利益は、（NEXTGIGAスクール案件を除いても）過去最高であり、売上高は2期連続で過去最高を更新

単位：百万円

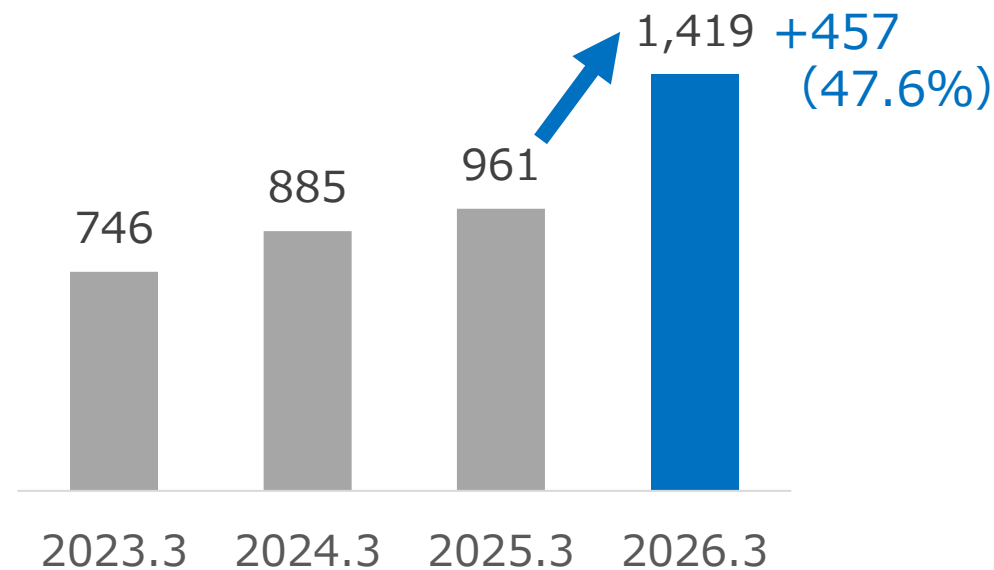
売上高

16,999



営業利益

1,419



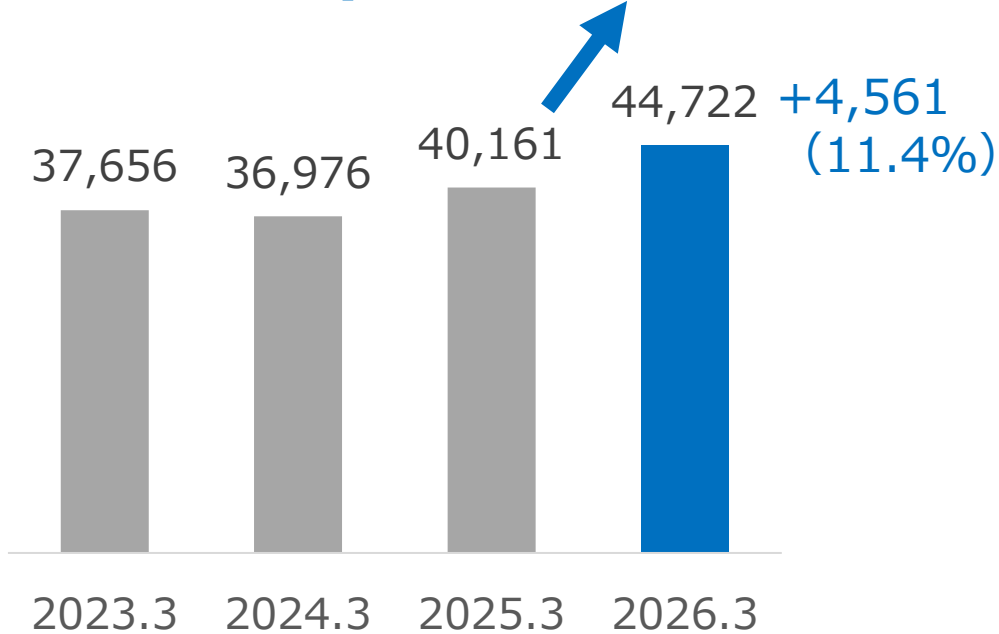
化学品 增收增益

売上高は、国内・ベトナム化成品販売、医薬品原薬販売、機能性素材受託製造、環境ビジネス（有価金属回収事業）が増加し、2期連続で過去最高を更新
 営業利益は、売上高の増加、医薬品原薬における工場稼働率の上昇が主要因

単位：百万円

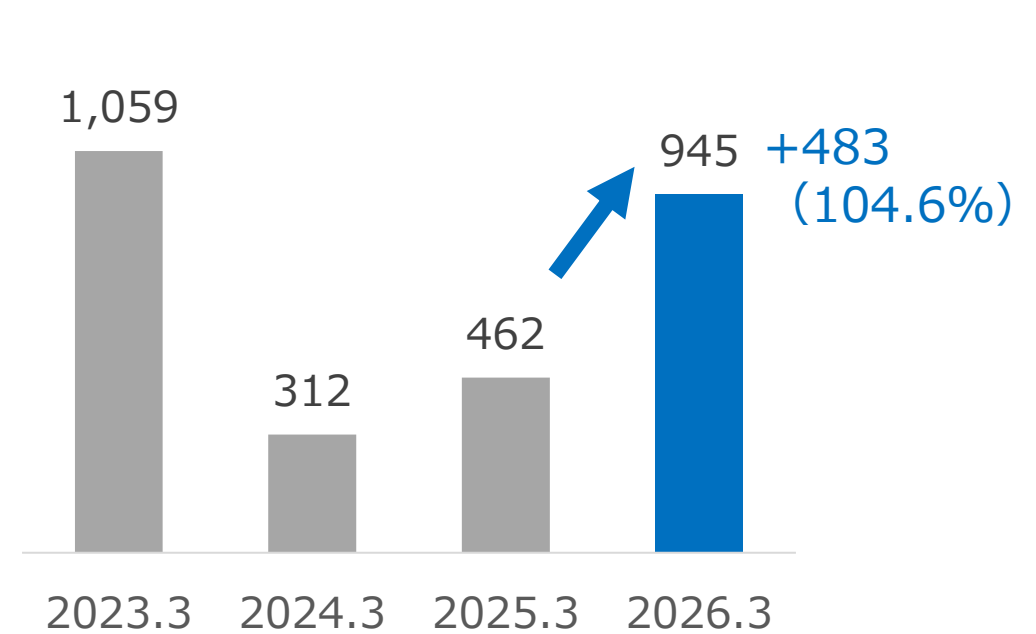
売上高

44,722



営業利益

945



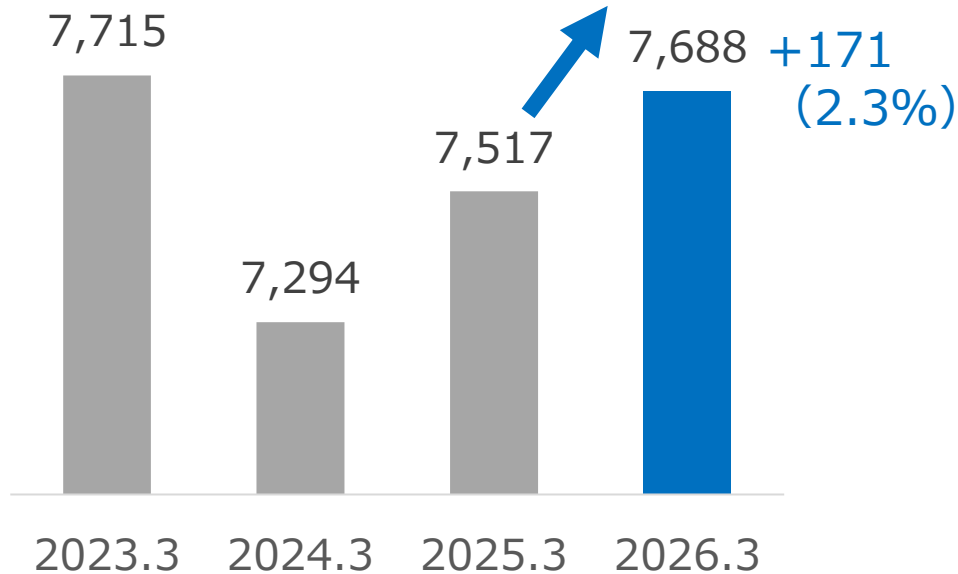
エネルギー 増収増益

売上高は、石油製品・民生用LPガスそれぞれの販売数量が増加
 営業利益は、コスト構造を改善し、過去最高を更新

単位：百万円

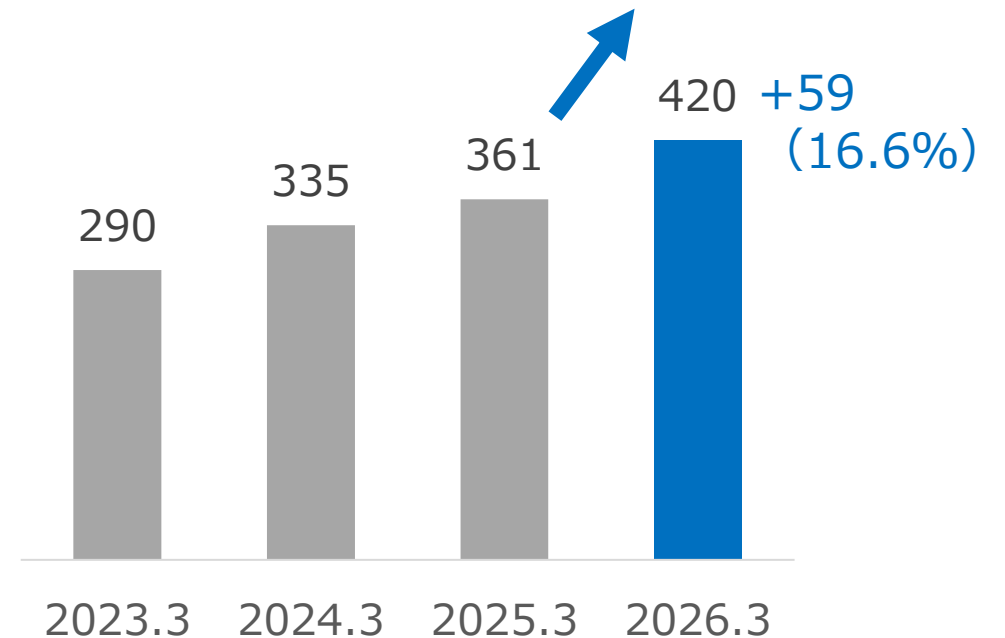
売上高

7,688



営業利益

420



住宅設備機器 増収減益

売上高は、首都圏において複数の大型案件が進捗
オリジナルブランドのプロモーション活動に伴う人件費や広告宣伝費等が増加し、営業損失が拡大

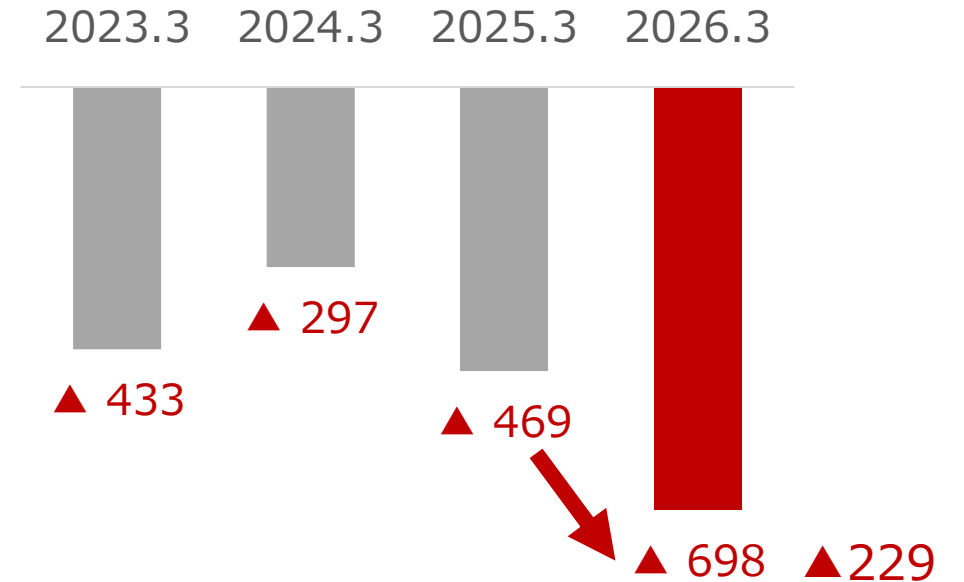
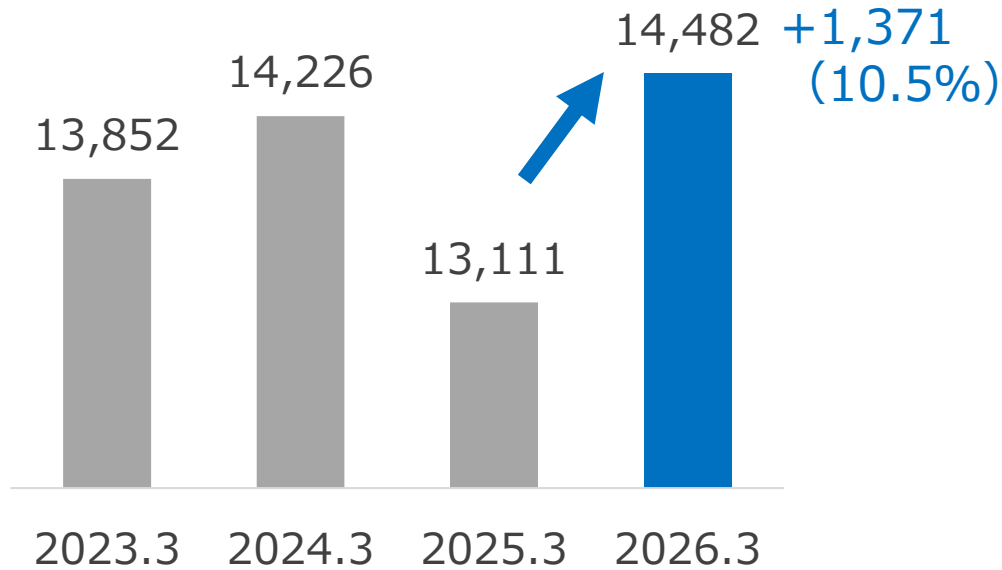
単位：百万円

売上高

14,482

営業利益

▲ 698



貸借対照表・キャッシュフロー

貸借対照表は、投資有価証券の時価評価の増加を主要因に資産が増加、借入金が増加
 フリーキャッシュフローは、税金等調整前当期純利益、投資有価証券の売却等を主要因に増加

単位：百万円

	2025.3	2026.3	増減	概要
流動資産	46,060	45,537	▲522	完成工事未収入金の減少
現金及び預金	8,445	9,026	581	
固定資産	47,436	55,994	8,558	投資有価証券の時価評価増加
資産合計	93,496	101,531	8,035	
流動負債	36,786	33,702	▲3,083	短期借入金の減少
短期借入金	14,085	8,505	▲5,579	
固定負債	9,137	10,863	1,725	繰延税金負債の増加
長期借入金	2,464	1,717	▲746	
負債合計	45,924	44,565	▲1,358	
純資産合計	47,572	56,965	9,393	
自己資本比率	50.7%	55.9%	5.2%	

	2025.3	2026.3	増減	概要
営業CF	4,236	8,562	4,325	(+) 税金等調整前当期純利益、減価償却費、 売上債権の減少額、仕入債務の増加額 (-) 法人税等の支払額
投資CF	▲1,481	▲660	821	(+) 投資有価証券の売却による収入 (-) 有形固定資産の取得による支出
財務CF	▲3,203	▲7,418	▲4,214	(-) 短期・長期借入金の純減額、 配当金の支払額
フリーCF	2,754	7,901	5,146	営業CF+投資CF

2027年3月期 業績予想

前期比で売上高は**減収**、また各段階利益のいずれも**減益**の予想

情報システムの売上高減少は、前期に発生したNEXTGIGAスクール案件の納入が落ち着いた影響を考慮

樹脂・エレクトロニクスの営業利益減少は、製造する樹脂成形品について原材料や物流コストの上昇を考慮

政策保有株式の売却等、資本効率向上の取り組みは継続する方針の一方、現時点は業績予想に織り込んでいない

単位：百万円

売上高

111,300

前期比 ▲3.9%

営業利益

3,000

▲11.2%

経常利益

3,900

▲13.7%

親会社株主に
帰属する当期純利益

2,600

▲28.3%

増加予想セグメント

住宅設備機器（前期比5.3%）

樹脂・エレクトロニクス（3.9%）

空調設備工事（3.6%）

エネルギー（2.9%）

減少予想セグメント

情報システム（前期比▲31.9%）

化学品（▲2.7%）

増加予想セグメント

住宅設備機器（営業損失290百万円に縮小）

エネルギー（前期比13.2%）

減少予想セグメント

樹脂・エレクトロニクス（前期比▲41.8%）

化学品（▲13.2%）

情報システム（▲1.2%）

空調設備工事（▲0.9%）

中東情勢の各事業セグメントへの影響

中東情勢の一時的な混乱は上期で収束すると想定し業績予想を作成
上記の前提が変わり、業績に重要な影響が見込まれる場合には、速やかに開示を行う方針

化学品

各国から資材を調達し、主に日本・ベトナムの製造業に提供。調達資材の一部はホルムズ海峡を経由しているが、取扱量は限定的であるため、業績への影響は軽微と見込む

各国の製造業の稼働状況や物流環境の変動に影響を受けやすい事業構造だが、資材の安定供給と調達困難な資材への対応に取り組んでいる

化学分野に強みを持つパートナー企業との協業により、独自のリサイクルビジネスを展開。収益性の向上に取り組む

樹脂・エレクトロニクス

主にベトナムで自動車部品等（樹脂成形品）を製造。原材料の一部はホルムズ海峡を経由し調達しているため、調達先の切り替えを実施。これにより、今後数カ月は必要量を確保できる見込みが立っている。

長期的な安定調達には課題は残っているものの、商社機能を活かし対応していく方針

情報システム

システムインテグレーション、グループウェア開発、データセンター運用、ハードウェアやネットワーク機器の仕入販売等を展開

直接的には中東情勢の影響を受けにくい事業構造であるため、この点での業績への影響は非常に小さいと認識

エネルギー

民生用LPガスの仕入販売は、中東情勢の影響を受けにくい事業構造。一方の石油製品の仕入販売は、ホルムズ海峡の通行状況の影響を最も強く受ける可能性が高い事業

石油製品は国内の元売り数社から仕入れており、今後数カ月は一定量を確保できる見込みが立っている

法人の事業継続や個人の生活などにも大きな影響を与える重要なインフラ事業であるため、安定供給に努める

住宅設備機器

住宅設備機器の仕入販売は、国内外の複数メーカーとの取引基盤を有している。一部で受注調整はあるものの、供給が全面的かつ長期的に停止する状況には至っていない

住宅設備機器の自社製造は、中東情勢の影響は顕在化しておらず、業績への影響は軽微と見込む

住宅設備機器の設置工事や各種物件の内装工事は、調達環境の変化や建築計画の見直しが生じる可能性。現時点で想定される影響は業績予想に織り込み済

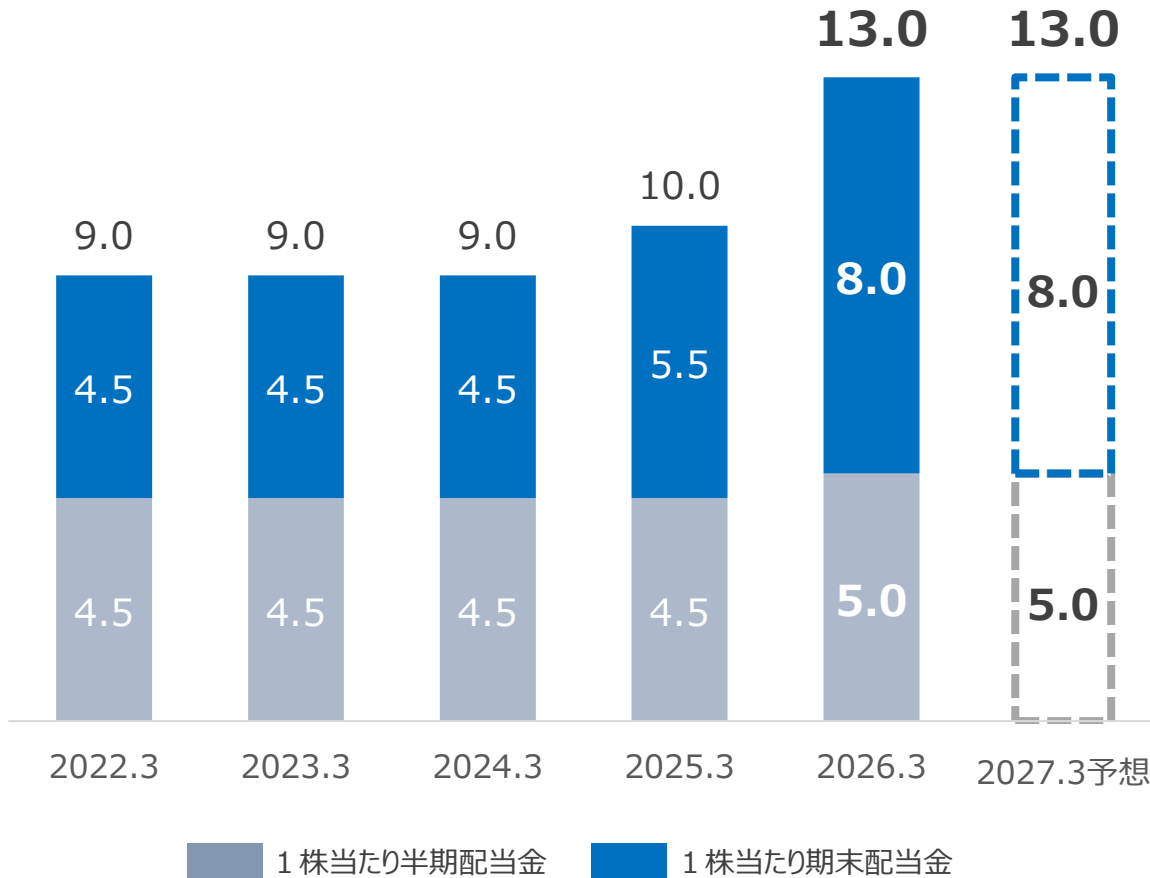
空調設備工事

サプライチェーンを取り巻く外部環境の影響により、資材調達に一時的な混乱が生じているほか、一部案件は短期的ながら工期に見直しが発生中

資材調達の多角化と、関連するパートナー企業との連携強化をすすめており、一定の成果も見えていることから、業績への影響は最小限に抑えられると見込む

株主還元

配当は、継続的な安定配当を実施するとともに、年間配当金総額の3倍程度の水準の配当積立金を確保する方針
 26年3月期実績は13円。中東情勢の懸念はあるものの、27年3月期期初時点では13円の予想
 株主優待は、300株以上ご所有の株主さまを対象とし、関連会社 ニッコーの陶磁器製品から選択



1,500株以上を5年所有者は抽選優待制度あり
 直近実績は、ニッコー工場見学・絵付け体験

トピックス

AIがもっともらしいウソをつく問題について、三谷産業が解決の理論を体系化
 AIの回答プロセスを「3つの関所」で制御。7件の要素技術について米国特許を仮出願
 日本発のAIガバナンス技術として国際的なAI安全性の議論にも資する知財の確立を目指す

■ AI活用で問題となる「ハルシネーション」

- 生成AIは業務効率化に大きく寄与している一方、もっともらしく見えても誤っている回答が生じ得るリスクが存在。金融・法務・製造・行政サービスといった特に高い正確性と説明性が求められる領域ではAI活用しにくい
- AIを重要業務に活用するには、回答の正しさよりも検証可能性や信頼性の確保が重要となり、人の判断へ切り替えられる「止まれる仕組み」を備える必要



トピックス

AIがもっともらしいウソをつく問題について、三谷産業が解決の理論を体系化
AIの回答プロセスを「3つの関所」で制御。7件の要素技術について米国特許を仮出願
日本発のAIガバナンス技術として国際的なAI安全性の議論にも資する知財の確立を目指す

「AI信頼性ガバナンス基盤」の全体像

AIの信頼性を担保する、3つの「関所（ゲート）」

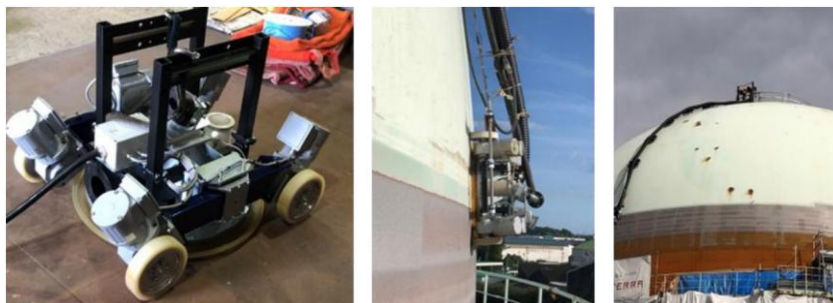


これらの7つの要素技術は別々の機能ではなく、データの入口／工程／出口を一貫して守る一つの基盤として機能します。

トピックス

その他、三谷産業グループが有している技術の例

三谷産業



ブラスト処理で塗膜剥離や構造物解体の前処理に活用

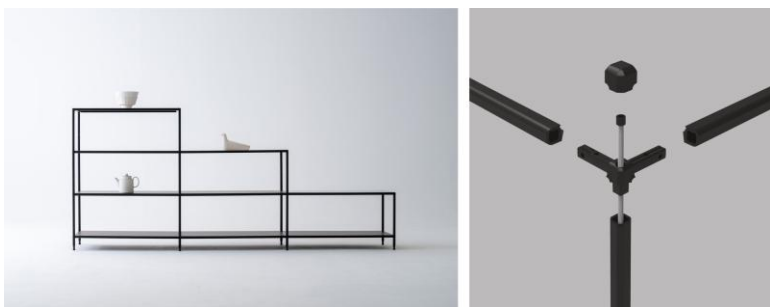


「えのき茸」エキス・だし



Chalazaでクラウド同士をつなぎ業務効率化

グループ会社



Tesera : ネジやビスを見せないフレーム構造



アウロステクノロジーズ : プラズマ技術でインフラ補強



ミライ化成 : CFRPから炭素繊維を取り出し再利用

最新情報・お問い合わせ先

最新情報は、SNSやIRメールでも配信しています
ぜひお気軽にフォローをお願いいたします！

SNS公式アカウント @MITANISANGYO



X



Facebook

三谷産業株式会社 PR企画室

TEL：03-3514-6003（IR担当）

- お問い合わせフォーム

<https://www.mitani.co.jp/contact/form>

- 三谷産業IRサイト

<https://www.mitani.co.jp/ir>

- IRサイト内 投資初心者向けページ「なるほど！三谷産業」

<https://www.mitani.co.jp/ir/discover>

- IRメール登録フォーム

https://www.mitani.co.jp/ir/ir_news/mailnews